

藝

GEI RIN

林

第五十七卷 第二号  
平成二十年十月

何ごとにも広き心<sup>①</sup>を知らぬ程は、文の才<sup>②</sup>をまね  
ぶにも、琴笛の調<sup>③</sup>にも、ねたらず及ばぬ所の  
多くなむ侍りける。……  
なほ才をもととしてこそ、やまとだまし<sup>④</sup>の  
世にもちゐらるる方も強うはべらめ。

紫式部『源氏物語』乙女の巻

①文の才 おもに漢籍の知識、漢才 ②まねぶ 真似て習得する。学ぶ ③ねたらず 草紙紙本「ねたえず」（音絶えずカ） 河内本「としたりず」（年足らずカ） 別本「ねたらず」（年足らずカ） 年期不足の意か ④やまとだまし 『河海抄』 「和国魂（和才魂也）」 参考『大鏡』「右大臣（菅原道真）は才世に傑れめでたくおはまし……この大臣（藤原時平・大和・魂などはいみじくおはしましたる」 現実に柔軟に対応する識見（斎藤正二「やまとだまし」の文化史） 講談社現代新書）